

2018 Gsef スペインビルバオ市Forumへ

グローバルに広がる「社会的連帯経済」を実感し、その実践から学び、日本での取り組みに弾みをつけ、世界と連帯しよう！！

2018 GSEFビルバオ大会

日本実行委員会 東京プレフォーラム

写真は2016年
モントリオール大会

■日時:9月15日(土)13時30分~17時(開場:13時)

資料代:500円

■目的:「2018GSEFビルバオ大会」への参加に向けて

■場所:明治大学駿河台キャンパス・研究棟4階 第一会議室

プログラム:

1. 開会挨拶:2018GSEFビルバオ大会・日本実行委員会

2. 基調報告:「世界や日本の社会運動の発展方向と、
『社会的連帯経済や協同組合』の関わり」

明治大学名誉教授 中川 雄一郎氏(プロフィールは裏面)

~~~~ 休憩 ~~~~

### 3. 各地の報告

- ①「一緒に暮らし/働くことによって社会的な弱者との共生をめざす」  
社会福祉法人 共生シンフォニー 常務理事 中崎 ひとみ氏
- ②「地域の縁側・居場所作りからの地域再生と街づくり」  
特定非営利活動法人ワーカーズコレクティブういず 理事長 北田 恵子氏
- ③「“共生・共創のまちづくり“への挑戦」  
認定NPO法人 やまぼうし 理事長 伊藤 勲氏
- ④「仕事と雇用確保を実現する連帯労組の戦略  
—大企業支配に対抗し「社会的連帯経済」の発展による社会変革を求めて—」  
報告者 関西派遣団より



主催:2018 GSEFビルバオ大会・日本実行委員会

事務局:ソウル宣言の会・事務局

〒164-0001 東京都中野区中野2-23-1 ニューグリーンビル301号「協同センター・東京」気付  
電話:03-6382-7605 FAX:03-6382-6538 E-mail:seoulsengen@gmail.com URL:http://www.seoulsengen.jp/

## (1) 2018 GSEF スペイン、ビルバオ市・モンドラゴン市 Forum へ

2013年の準備会、翌2014年の本大会と、ソウル市で開催された「GSEF(Global Social Economy Forum)」は、2年に1度の国際大会としてソウル市から、世界へと飛びたちました。2016年はカナダ・モントリオール市で開催され、2013年の「ソウル宣言」に続いて「モントリオール宣言」を発信しました。そして本年2018年は、10月1日(月)～3日(水)スペイン・ビルバオ市で開催されます。その成果が期待されます。

今回は「ソウル宣言の会」の呼びかけで、「2018 GSEF ビルバオ大会・日本実行委員会」を組織し、参加準備を進めてまいりました。ビルバオ市のあるバスク地方は、モンドラゴンをはじめとして、歴史的に協同組合の実績のある地であることから、関心も高く、また昨今の協同組合の再評価が世界的にも高まる中(協同組合のユネスコ無形文化遺産への登録等)、呼びかけに対して遠方にも関わらず50名規模の参加者が集まりました。現在、最終的な参加準備を行っているところです。

日本実行委員会の役割は大きくわけて以下を設定しています。

1. 国内の各界、各層に広く大会の意義をお知らせする。
2. ビルバオ大会への発表テーマと発表者を組織する。
3. ビルバオ大会への参加者を組織する。
4. ビルバオ大会の成果を大会後、多くの方々、団体と幅広く共有していく。
5. 日本における社会的連帯経済の連帯組織 = (仮称)社会的連帯経済フォーラムジャパン・準備会を展望していく。等を考えています。

以上に基づき実行委員会では、月1回ペースで学習会を開催し、ヨーロッパの「社会的連帯経済」や協同組合の動き、実践活動を学んできました。また、その一環として、今回のプレフォーラム開催も準備しています。大会後は、報告会を参加者の協力で各地で取り組み、日本でも「社会的連帯経済の連帯組織」を展望したいと考えています。今年の4月、日本では協同組合セクターが連携を強める組織として「日本協同組合連携機構(JCA)」が発足し、その機運は高まっています。

日本には、協同、共生を大切にし、多様性を尊重した「社会的連帯経済」を意識した取り組みは数多く見られます。しかしまだまだ知られておらず、その結果、持続可能な新たな社会システムの創造には、まだまだ力不足です。一方、世界では国連がSDGsを提唱し、GSEFもこの事を強く意識しています。国連のILOなど各機関はGSEFの活動に注目し、大会に参加します。私達はビルバオ大会を通じて世界を知り、学び、また、日本からの発信も行い、グローバルな市民の連帯を広げていきたいと考えています。

## (2) 「2018 GSEF ビルバオ大会」メインテーマ

フォーラムでは中心的テーマとして次の三点に焦点を当てる。

価値:社会的連帯経済を育てる新しい成長モデルの柱と根っこ; 自己管理、相互支援、自律性、平等性、民主性、経済的連帯、および社会と環境へ責任

競争力:競争力は、社会的連帯経済と無関係ではなく、むしろその価値の一部を測るパラメータであると、示すこと。競争力を価値との結びつき、言い換えれば、社会的市場経済は、社会的連帯経済を広く受け入れさせるベースである。

包摂的で持続可能な地域創生:社会的連帯経済は、困難に直面している地域開発を経済活動の持続可能な成長と結びつけることができる能力をもつことを示し、その形態、複数の文化、世代などに多様化している社会の要求にも関心を向けさせている。

## (3) 「2016 GSEF モントリオール大会」参加者

\* 62 の国と 200 の地方政府代表を含む 330 の都市からの 1,500 人の参加者

\* 参加者の内訳: 52% が社会・連帯経済組織とネットワークの代表。地方自治体の代表者は 20%。8% が学者の代表者。10% が市民 社会代表者。10% が他の参加者(メディア、ボランティア)

\* 参加者の出身地域: 6% アフリカ、16% ヨーロッパ、ラテンアメリカ 8%、11% アジア、北米 59%



### 基調報告者紹介 中川 雄一郎 氏

明治大学政経学部教授、博士、現名誉教授。英国ヨーク・セント・ジョン大学より名誉学位授与、日本ロバート・オウエン協会会長、元日本協同組合学会会長。

著書:『イギリス協同組合思想研究』日本経済評論社、『キリスト教社会主義と協同組合 E. V. ニールの協同居住福祉論』日本経済評論社 明治大学社会科学研究所叢書、『社会的企業とコミュニティの再生 イギリスでの試みに学ぶ』大月書店等、その他多数。